

「成人臍帯血移植における血小板回復が移植成績に及ぼす影響」について

【はじめに】

臍帯血移植は、難治性造血器疾患の根治的治療法として確立していますが、血小板を含む造血回復が遅延することから、出血性合併症の併発が懸念されます。そこで、東京大学医科学研究所附属病院の診療情報を用いて、血小板回復と移植後経過を後方視的に解析することで、当施設における臍帯血移植成績の改善に貢献することを目的とした研究を実施することにしました。なお、この研究は東京大学医科学研究所倫理委員会の承認を得て研究機関の長の許可を受けて実施されます。

【方法】

東京大学医科学研究所附属病院で臍帯血移植を行った造血器疾患の方の診療情報を用いて、血小板回復、輸血総量や移植後合併症についてデータを集積して、血小板回復が移植成績に及ぼす影響を検証します。

【対象となる患者様とご協力いただきたいこと】

東京大学医科学研究所附属病院において2004年3月以降に臍帯血移植を受けた16歳以上の方を対象としています。ご協力いただきたいことは、該当する患者さんの診療情報を本研究に使わせていただくことです。

診療情報：年齢、性別、疾患、移植方法、臍帯血細胞数、造血回復、生存、移植後合併症など

なお、本研究にご自身の診療情報が使用されることを辞退されたい場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。辞退の連絡を受けた場合、それ以降、患者さんの診療情報を本研究に用いることはなく、辞退によって患者さんが不利益を被ることはありません。しかしながら、辞退のご連絡を受けた時に、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合は結果を廃棄できない場合がありますことをご了承ください

【個人情報保護の方法】

診療情報を使わせていただくにあたっては、患者さんを識別できないような登録番号を用います（匿名化）。登録番号と個人情報の対応関係を記した表（対照表）は血液腫瘍内科・分子療法分野の鍵のかかる保管庫にて厳重に管理します。

【研究参加による利益・不利益】

利益・・・本調査に参加いただいた患者さん個人には特に利益と考えられるようなことは

ありませんが、研究結果が今後の治療の発展につながる可能性があります。

不利益・・・保存されている診療情報のみを用いるためご負担をおかけすること

はありません。

【研究終了後の情報・データの取り扱い】

研究終了後、個人情報に記載した対照表は、研究責任者が 5 年間保存した後にシュレッダーにて廃棄します。

【研究成果の公表について】

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者さんの個人情報は厳重に守られますので、第三者に患者さんの個人情報が明らかになることはありません。

【研究組織】

研究責任者

小沼貴晶 血液腫瘍内科 助教

研究分担者

東條有伸	分子療法分野／血液腫瘍内科	教授／診療科長
高橋 聡	分子療法分野／血液腫瘍内科	准教授／副診療科長
加藤 せい子	血液腫瘍内科	助教
田上 晋	血液腫瘍内科	医員
磯部 優理	血液腫瘍内科	医員
神保 光児	血液腫瘍内科	医員
大岩 真希	血液腫瘍内科	技術補佐員

【問い合わせ窓口】

この研究についての質問やご自身のデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合、あるいは、本研究への診療情報の使用について辞退されたい場合など、この研究プロジェクトに関することは、下記の窓口までお問い合わせ下さい。

研究責任者 血液腫瘍内科 小沼貴晶

〒108-8639

東京都港区白金台 4-6-1

TEL:03-3443-8111

FAX:03-5449-5429

E-mail:tkonuma@ims.u-tokyo.ac.jp